

# 「スーパー」の 食卓彩菜

「この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございますお礼です。

11月号 Vol.61 卓彩菜  
お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがきなどで、ご意見や感想等何なりとお寄せくださいますよう、宜しくお願い申し上げます。



## おやすめ入会 「釜石鵜住居復興スタジアム」

「ペッコ」は「ちよっと、又は小さい」、「おやすめんせ」は「お休みなさい、又は休んでいって（寄って）いって、おやすみなさい」という意味の花巻弁です。題字は「ちよっと、ここで休んでいって〜」という意味です。

最近、来々年（2019年）の9月から日本で開催されるラグビーのワールドカップが少しずつ盛り上がりつつあるように気ががします。開催される12会場の内の一つに岩手県釜石市の釜石鵜住居（うのすまい）復興スタジアムがあり、東日本大震災の被災地で唯一の開催地です。釜石市は津波により大きな被害を受けましたが、その中で、小中学生が自ら率先して避難した多くの命が助かった「釜石の奇跡」を起こしたのが鵜住居であり、防災を象徴する所として注目されました。その鵜住居に建設され、今年8月にオープンした鵜住居復興スタジアムは、海に近く森を背に建てられ、豊かな自然を象徴しているようです。観客席の大半は木製で、昨年起きた市内の山林火災で焼損した杉材を使用、また解体された旧国立競技場の座席、改修のされ

た熊本県民総合運動公園陸上競技場と東京ドームから提供された座席も使用されています。災害に負けず立ち上がろうという思いと、復興に寄せられた思いと絆が詰まっています。被災地が復興していく姿を発信する場になることを願っています。

釜石市は、「ラグビーのまち」。現在トップチャレンジリーグのチーム・釜石シーウェイブスFCの前身の実業団チームが、新日鉄釜石時代には、1978年から84年にかけて日本選手権7連覇という偉業を達成し、その強さから「北の鉄人」と呼ばれ一時代を築きました。私も、国立競技場や秩父宮ラグビー場まで観戦に行ったことがあります。サッカーのJリーグが発足して以来、サッカー人気に押されていく感じはありますが、それ以前は、実業団の試合だけではなく大学のリーグ戦なども、サッカー以上にテレビ中継をしていたような気ががします。

ワールドカップチケットの抽選になかなか当たらず、いまだにチケットを入手できていない私ですが、観戦できることを祈っています。機会がございました時は、ラグビーの盛り上げと震災復興の手助けにもなりますので、どうぞお出てください。海の幸、山の幸、美味しいものもたくさんありますよ（笑）。

## 昭和のレトロ感が漂う温泉街 台温泉

## 花巻だより



秋も深まり寒くなってくると温泉が恋しくなりますね。花巻は温泉がとても多いところ。今回は、大型ホテルが並び北東北でも温泉リゾートとして有名な花巻温泉ではなく（笑）、その脇を抜けて数キロ奥に向かった「台温泉（だいおんせん）」をご紹介します。台温泉の発祥は諸説あり、伝説としては約1,200年前、史実としては約600年前になります。天正19年（1591年）花巻地方が南部氏の領土となると、南部藩は台温泉に湯守を置き、殿様が湯治の際の宿泊所を建て、藩公や重臣がたびたび湯治にきました。南部領内の温泉の中で最も早く開けたのは台温泉と言われ、古くから天下の薬湯としてにぎわってきました。花巻温泉の大看板のゲートの脇を通り抜け、奥に数キロ向かうと小川（台川）に沿ってその温泉街があります。周遊できる円形の細い道路沿いに小さな温泉宿や旅館が立ち並んでいる風景は、タイムスリップしたかのような昭和レトロな雰囲気温泉街です。旅館ごとに微妙に泉質も違うところもございますので、ぜひ各旅館の温泉巡りをしてみてください（入浴だけでもOKのようです）。戦時下に宮大工が腕を競って建てられたという純和風木造4階建ての旅館、岩盤を掘って作られた天然の岩風呂もあり、日本特有の侘び寂び（わびさび）を感じられる場所もありますよ。

隠れ家的にゆっくり、ゆったり過ごしたい方には、台温泉はお勧めの温泉街です。